

)学校 Letter

2016年2月発行 発行元:「水の学校」事務局 tel · 0422-60-1914 http://www.city.musashino.lg.jp

facebook「武蔵野 水の学校」

武蔵野市水環境連続講座「水の学校」とは

「水の学校」は、市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える連続講座です。くらしの中の身近な水循環、下水 道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水をとりまくさまざまなテー マをとりあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。2014年度からスタートし、2年目が終了しました。

しらお れい

下水道写真家 白汚 零 写真展「足もとに広がる地下水道」及び オープニングトークを開催しました!



1/18(土)~21(木)に 武蔵野プレイス 1階ギャ ラリーにて下水道写真家、 白汚零さんの写真展「足 もとに広がる地下水道」 を開催しました。

展示に先駆け、1/16(木) には白汚さんご本人によ るオープニングトークを 行いました。「水の学校」 では初めての平日夜のプ

写真展会場の様子

ログラムとなり、仕事帰りの方、武蔵野プレイスを利用する方など 約20名の参加がありました。

全国各地で下水道にもぐる

高知から上京した頃、住んでいたアパートの前で下水道管 にたまった泥やゴミを取り除く現場に遭遇し、頼み込んでマ ンホール内に入らせてもらったのが都市型下水道との出会い だったという白汚さん。以来、現在にいたるまで全国の下水 道管やマンホールなどの写真を撮り続けています。

オープニングトークでは、関東地方の他、北海道、仙台な ど全国各地をまわって撮影された何十枚もの写真を紹介いた だきました。「撮り始めた頃は「下水は白黒の世界だ」とい う想いで作品作りをしていたが、レンガ造りの日本最初の 下水道、神田下水の撮影を機に、色のある下水道の魅力を 見出した」というエピソードや、時には深さ 40m にもなる 下水道での撮影の苦労など作家ならではのお話をたくさん 聞くことができました。

まちを支える見えない世界に驚き

オープニングトークに続いて開催された写真展では、武 蔵野市が管理する女子大通り幹線の他、渋谷区にある宇田 川幹線、神田下水など都内の下水道写真 7 点と、北海道札 幌市や愛知県名古屋市など全国の写真 4 点の計 11 点を展示 しました。

普段は見ることのできない下水道の内部を白汚さんなら ではの視点で切り取った幻想的な写真の数々に引き寄せら れ、多くの方が足を止めて見学されていました。

見学者の声より

- ●通りすがりでしたが、思い切り目に留まりました。形や段差、 流れに特徴があってオモシロいんだなと思いました。
- ●思いがけないところに素敵な空間があることを再認識させ られました。

⋩∅ 2/6(土)「水の学校」サポーターミーティングを行いました!

今年度の水の学校連続講座も終了し、昨年からの 12 名に加 えて新たに19名、計31名になった「水の学校」サポーター。 この日は 11 名が集まり、来年度以降の活動について話し合い ました。この日に集まったメンバーの「やりたいこと・興味

「水の学校」サポーターとは?

2014・15年度の連続講座修了生で構成する、水に関する 自主活動や「水の学校」の企画・運営を行うグループです。



のあること」を改めて共有し、グループに分かれて活動アイディアを出しあった後、仮の案として最初の取り組みを決め て具体的なプランニングにも挑戦しました。今後の自主活動の足がかりとなる一日でした。

各グループのやりたいこと、始めの取り組み

川・水辺 グループ

- ①仙川探検隊★ 毎まずはこれから!
 - ・(市内の)上流、中流、下流の違いを知る
 - 小金井~三鷹まで川べり歩き
 - ・仙川全体の姿をもっと知ろう
- ②仙川探検隊その2~実際に関わってみよう
 - ・川、水辺の整備
 - ・川で遊ぶ、生きもの調査
 - ・生きものを育てる(用水を引いた田、畑で)
- ③多摩川の水源を見る
- ④仙川マップを作って配布する

水循環 グループ

- ①学校への出前授業
 - ・「水の学校」の内容や独自に学んだことを 子どもたちに伝えたい
- ②公園へ雨水浸透ますを設置
- ③水の学校上級者コースを作って、実施
- ④下水処理水の再利用方法の考案
- ⑤小河内ダム見学★ ⑤ まずはこれから!

口に入れる水 グループ

- ①飲み比べ・食べ比べ★ 🐨 まずはこれから!
 - ・いろんな場所の水道水を集めてご飯を炊い たりお茶をたてて味の違いを比べてみる
- ②体の中の水のゆくえ
 - ・飲んだ水やコーヒーはどう処理される?
- ③酒蔵見学
 - ・酒蔵で使用している水の飲み比べ
- ④「水ソムリエ」検定をつくる
- ⑤日本の硬水・軟水分布マップを作る

フトンコラム no.14: 武蔵野市の下水道の使用料について

1987 (昭和 62) 年に下水道普及率 100% を達成した武蔵野市では、いかに下水道を効率的に管理し、住みやすいまちを維持していくかということが課題となってきています。未来を見据えた長い視点での「下水道経営」のために今から取り組みを始めています。

市の下水道の財政は?

下水道は雨水と汚水を排水し、まちを洪水から守り衛生的な生活を維持する役割を担っています。このうち、雨水の処理にかかる費用は税金で負担し、汚水の処理にかかる費用は市民の皆さんからの下水道使用料によってまかなっています。武蔵野市では市内に処理施設がないため、汚水を他市区にある東京都の水再生センターへ送っています。このための処理費用や処理施設の建設・維持管理にかかる費用についても分担して負担しています。

下水道施設は数十年という長い期間にわたって使い続けることから、建設した時の世代だけがその費用を負担するのではなく、複数の世代で公平に負担していく必要があるという考え方に基づき、建設時に国・都からの補助金のほかに地方債を借り入れ、数十年にわたって返済しています。

その財源として、下水道使用料に加え一般会計からの繰入金(主に雨水の処理費)を充てています。

2014 (平成 26) 年度の歳入は約 52.6 億円、歳出は約 50.9 億円となっています。

ご自分の家の下水道使用料、ご存知ですか?

家庭の下水道使用料は、下水道へと流す汚水の量によって決まります。汚水の量は使った水道水の量を元に計算され、2ヶ月ごとに水道料金と合算して請求されています。ぜひ次回のお知らせを詳しく見てみてください。



未来のくらしを支えるための使用料改定

下水道は、市民の快適な生活を地下から支え、環境保全にも貢献する大きな役割を担っています。これからも 50 年、100 年と安心して下水道が使い続けられるように、武蔵野市では、施設更新、効率的な維持管理、定期的な計画や使用料の見直しなどを進めています。

市では早くから下水道の整備に取り組んだため、20 年後には下水道管などの下水道施設の80%以上が50 年という寿命を迎えます。将来急激に下水道使用料が引き上げられることにならないよう、2016(平成28)年4月から下水道料金の改定を行います。

同時に、新しい工法を取り入れた下水道の長寿命化計画を 策定するなど、時代の変化に合わせたコスト削減に取り組み 続けることで、「持続的な下水道経営」の実現に努めています。

家庭での下水道使用料の比較					
世帯人数の 1ヶ月あたりの 平均使用水量	現行		近隣A市	近隣B市	23区
	(H27 年度)				
1人 (8㎡)	450	470	400	350	560
2人 (17 m²)	900	920	958	840	1,550
3 人(22 ㎡)	1,170	1,190	1,316	1,260	2,332
4人 (27 ㎡)	1,470	1,490	1,574	1,785	2,860

(単位:円 税抜き)

A

12/19 (土) ステップアップ・ワークショップ第3回を開催しました!

ステップアップ・ワークショップは、「水の学校」修了生・受講生を対象に今年度からスタートした参加型講座です。 武蔵野市が現在取り組んでいる水に関わる施策について、担 当者から直接説明を聞いたり、関連する現場を見た後で意見 交換し、武蔵野の水と生活・まちの関係、そしてこれからの あり方を共に考えます。今年度は「水循環・水収支」、「川と 上水」、「下水道の施設更新・耐震化・使用料」をテーマに計 3回開催しました。

市民にとって効果的な PR とは?

第3回のテーマは「下水道の施設更新・耐震化・使用料」。 修了生・受講生8名に加え、下水道課職員など計13名が 参加し、ニュースレター13号および今号の「水コラム」 で取り上げた内容に加えて、市民に向けた効果的な情報 発信の方法について意見交換が行われました。

参加者からのアイディアより

【市報など紙面のアイディア】

- ●文字を減らす。言葉だけでなく絵でわかるのが一番
- ●「下水道経営」という考え方は新鮮だった。「経営のため に必要」という示し方だとわかりやすい
- ●「下水道がもしなかったら…」というシミュレーション を示す
- ●「投資」「まちの未来像」といった前向きな表現を取り入れ、住みやすくなるということをしっかりアピールする

【その他の PR アイディア】

- ●映像も効果的。ケーブルテレビなどで職員が直接話す
- ●夏休み前の学校でこどもたちに話をする
- ●「水の学校」のような裾野からの取り組みを継続する
- ●6~9月頃に水を意識するイベントを行う。水道・下水 道・消防が連携したフェスティバル、ポスター掲示等
- ●下水道施設の付近に憩いの場をつくり、看板で解説する